

# 学術刊行物としての雑誌・紀要のあり方についての提言

松坂敦子（埼玉医科大学保健医療学部図書館）、渋谷綾子（埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校図書室）、早川千鶴（毛呂山病院附属看護専門学校図書室）、三村沙矢香（埼玉医科大学保健医療学部図書館）、成田俊行（埼玉県立がんセンター図書館）

## 提言の趣旨

学術刊行物は読み捨てられる雑誌ではない。小さな出版機関の刊行物であっても学術的価値を伝達する学術刊行物は、いつでも、誰でも、安価に、迅速に検索でき、原文が入手できるものでなくては出版する意味がない。看護学、医学分野の図書館員として、日々、利用者の文献ニーズに応じている筆者らは、学術雑誌の発行者が、学術雑誌としての形式上当然に採用すべき出版・編集技術上の事柄に案外に関心であることに気づかされる。本報告は、貴重な学術情報源でありながら、テクニカルな問題で価値を下げている雑誌が少なくないことに出版人各位がお気づきになり、学術雑誌として改善すべき点を認識してくださることを願って、趣旨に賛同した図書館人有志の協力によりまとめられた改善提言集である。

## 対象として例示した学術刊行物

本報告の対象は、筆者らの図書館の半数以上が共通して受け入れている定期刊行物であり、多くの図書館が所蔵しているメジャーな雑誌、紀要である。

## 評価基準

評価の基準は「利用者の便宜」である。その雑誌、記事を特定し、検索し、入手するために必要となる情報が容易に得られるかどうか、本文の入手・閲覧・引用が簡単か難しいか、学術雑誌として重要な事項を 10 の項目に分け、その難易度を評価項目ごとに「いたって容易」から「著しく困難」までの 5 段階にわけて判定した。10 の項目とは、誌名の明確性、ISSN の明確性、検索の容易さ、遡及利用の容易さ、入手の容易さ、出版スケジュールの明確性、別冊構成の明確性、論文構成の標準化、ページレイアウト上の配慮の有無、編集・発行方針の明確さである。

## 評価の結果

各誌について最近号を直接検証し、必要があれば最近 1 年分について検証した。筆者らの評価点の平均値を項目ごとに示した。その結果は当該雑誌・紀要を評価しているのではなく、技術的改善点の所在を示している。